

補綴関係	7.18	20	永
			秘

1355

三月十八日

片



軍務局 第一課 局長

航空本部

総務部長
教育部長
技術部長

第一課長
第二課長

村海軍航空隊

八九式艦上攻撃機
才一三八九號

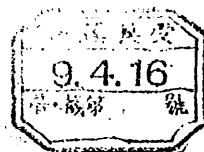
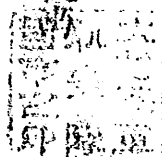
遭難事故報告

大空機第六五號

昭和九年四月五日

四月五日提出

官房受



4.24 官房



一日時場所

昭和九年三月六日 午後零時四十分
宮崎縣細島灯台、四四度一〇哩

二搭乗者

氏名	一室植野三郎	伊藤村梅林孝次	三原曹伊東太市
経歴	昭和九年六月一日一期船長卒業 総航行時数三〇八時五十五分五分	総航行時数八時五十分	総航行時数三〇時三十分
妻妾等前ノ状況	同	同上	同上
記	事行方不明後殉職認定	伊六十七海救助花	同上

三使用機

八九式艦上攻撃機 才一三八九號

製造番號製造年月日	三菱一二號 昭和七年十月九日	三菱六五九〇號 昭和九年十月一日
機	機	機
体	体	体
發動機	發動機	發動機

四. 飛行ノ目的

聯合艦隊第一回基本演習乙軍第二攻撃部隊第三小隊、二番機トシテ敵航空母艦龍驤爆撃

五天 候

晴 雲量二 雲高一五〇米 風向三二五度 風速七節
 視界三〇哩 海上平穩

六. 事故ノ狀況

(一) 航空事故ノ概要

前記ノ飛行目的ヲ以テ今日午前十一時半鹿兒島縣鹿屋飛行場ヲ離陸三機編隊制形都井岬通過後真方位

事故發生前狀況	使用時數	
	分解檢校	製造機
正規偵察狀態 兇備	六三時二五分	二五七時四〇分
兇備 異狀ナシ	七〇時一〇分	八三時四五分

二十八度ヲ索敵前進中午後零時三十五分鶴見崎ノ一
 九〇度ニ〇埋ミ於テ敵前衛部隊(第七戦隊)發見一番機
 オ一三八三號上昇接敵ヲ開始セルヲメ同機モ之ニ續カントセシ
 カ(以下遭難機偵察者梅林豫備少尉ノ言参照)發動機
 回轉數減少シ高度下リ始メタルヲ以テ富高飛行場ニ不時
 着ヲ決心シ編隊ヲ離脱シテ飛行續行中發動機回轉
 數ノ減少甚ダシク水平飛行不能トナリ遂ニ前記地點ニ不
 時着スルノ止ムナキニ至レリ

富高飛行場ニ向首後我不時着スルヤモ知レズト打電シ更
 ニ此地ニ到達シ得サルヲ覺リテ「S.O.S」不時着地點ニ打
 電セントセシモ及バズ高度約五十米ヲ偵察者ハ浮込装
 置ヲ開カントセシモ操縦者ノコト待テレノ言ニヨリ一旦之ヲ止ム高
 度約三十米ニ至ルヤ偵察者ハ浮込装置ヲ開クヘキヲ決心

シ之ヲ操縦者ニ告グ瓦斯壇トグルル赤ヲ引キタルモ伸ビ
 ズ(出發前作動堅キヲ聞キ居タルタメカツ入テ引キタリ)
 用心足ニカラ入テ引キタルニトグルルハワイヤリヨリ離脱セタメワイ
 ヤリノ一端ヲログルルニ捲附ケテ試ミントセルモ短カリテ用ヲナサ
 ザリシタメ遂ニ浮泛装置ヲ開ク断念シテ其ノ首操縦者ニ
 告グ操縦者ノ態度ハ沉着冷靜ニシテ其ノ着水振リハ平
 時ト何等異ナラス向風ニテ良好ナル着水ヲナシタリ
 操縦者ハ「一寸待テ」ノ言ヲ發セル後何等ノ應答ナシ操縦ニ專
 念セタメナリト思惟ス着水前ニハ「ストップ」ハ全開ノ位置ヲ
 リタリ
 午後零時三十九分車輪水ニ觸ルトト思フヤ衝撃
 ト共ニ機体ハ逆立トナリ操縦席ハ海中ニ没入シ偵察席ハ半ハ
 浸水セリ 偵察者ハ着水ト同時ニ左手ヲ打撲シ機ノ右
 側ニ投出サレタルモ落下傘下部連接索鉤ヲ傘体鉤ニ掛

ケアリタルタメ海中ニ引キ込マレントセシカバ之ヲ外スエトテ試ミ
 タルニ意ノ如クナラズ 將ニ危険ニ瀕セシカ此ノ時裝帶ヲ脱スベキニ
 気付キ機体沈没前之ヲ脱シ辛ウジテ海面ニ浮ブテ得タリ
 電信員ハ着水前落下傘裝帶ヲ脱シ居タルタメ機体着
 水ト同時ニ海面ニ投出サレ其ノ衝撃ニヨリ顔面ヲ打撲セリ
 不時着後機ハ極ク短時間(一分以内)尾翼ハノミヲ残シテ浮上シア
 リシモ間モナク全没シ南ハ機影ヲ見ズ操縦者ハ遂ニ行方
 不明トナル操縦者ハ万全ヲ期シテ操縦ニ専念セルト機体沈没
 ノ急激ナルトニヨリ操縦席ヨリ脱出ノ機ヲ失シ策機ト共ニ沈
 没セルガ如シ 偵察者ト電信員ハ救命浮標ニ倚リ海上ニ浮
 ブト約四十分ニシテ伊六十七潜水艦ニ救助サレタリ僚機オ
 三九一號ハ機体沈没ノ前後上空ニ到着爾後救命浮標ニヨ
 ル偵察員ト電信員ノ監視ニ任シ居タルモ偵察員電信

員ノ伊六十七潜水艦ニ救助サルヲ確メタル後歸投セリ

(二) 搜索作業ノ概要

遭難直後三月六日及同七日、聯合艦隊所屬艦船及赤城艦
行機十数機並當隊飛行機二機ニカフルニ地方官民ノ舟艇ヨリ
極力死体搜索ニ努メタルモ油ノ水面ニ多量擴散ニアリテ
飛行機沈下位置ヲ推定シ得タルニ過ギズ而シテ當初伊六十
七潜水艦ノ通報シタル遭難地點ハ細島灯台ノ六八度一
五埋ニシテ百尋界線外ノ深海ナルヲ以テ人員器材ノ揚收
ハ到底不可能ト断念シ居タリシモ三月九日午後當隊搜
索飛行機隊指揮官ノ報告ニヨリ油ノ流出ヲ續ク遭
難機ナルコト確實ニシテ而モ現場ハ細島灯台ノ四四度一〇
埋ニシテ水深約九十米ナルヲ知リタルヲ以テ掃海揚收ヲ決
意シ第二艦隊ノ應援ヲ求メ三月十日初雪ハ現場ニ

位置浮標ヲ設置セリ

而シテ宮崎縣警察部ハ事故發生以來連日細島警察署附屬警察船高千穂丸ヲ以テ現場ノ監視並ニ掃海ニ當ラシメヨリシ處十一日以降更ニ油津警察署附屬警察船準丸ニ細島港回航ヲ命シ兩船協同掃海隊派遣士官ノ指示ニ従ヒ底曳網ヲ以テ掃海ヲ實施スルコトセリ然レドモ十一日以降悪天候強風相次ギ海上荒レ作業極テ困難ナリシモ十三日及十五日ノ兩日ニ亘リ掃海ノ結果兩日共初雪ノ設置浮標ニ極メテ接近セル地點(十三日ニ現地點ニ油ノ薄ク流布セルヲ現認セリ)ニテ重量物ヲ拘撻シ該重量物が遭難機タルコト略確實ナルモ使用網弱キタメ引揚中網ノ一部(幅約五米深サ約十米)ヲ破リトラレ終ニ揚收ノ目的ヲ達セザルタメ十五日限り警察船ヨリ

(四)

掃海ヲ断念シ爾後ノ対策トシテハ宮崎縣警署ヲ介
シテ附近漁業者ニ遭難者揚収者ニ適當ノ謝禮ヲ行
フコトヲ通達シ揚収ニ努メツ、アリ

七、事故原因ノ推定

事故原因ヲ(一)不時着ノ原因 (二)植野一空殉職ノ原因ニ分
テ推定セントス

(一)不時着ノ原因推定

不時着ノ原因ハ發動機不調ニアリシコト確實ナリ
而シテ此ノ發動機不調ノ原因ハ機体沈没ノタメ適確ナ
ル判定シ下シ難キニ僚機オ一三九一號搭載發動機ノ故
障及從來ノ事故ニ鑑ミ吸鈎ノ焼損ト推定サル
(二)植野一空殉職ノ原因推定

の機体沈没の急激ナリシコト

同機ハ正規満載偵察状態ニシテ出發後一時間経過セ
ルノミナレバ増槽燃料ヲ約一三〇立消費セル過ギス機重
極メテ大ナリ

而シテ唯一ノ頼ミトシテ浮込装置ハ旧式(昭和八年十一月

二十七日航本機密第一〇七號通牒ニヨリ三菱航空機株式

會社ヲ九年二月二十日迄ニ改修豫定ナリシ所藤倉

工業株式會社ヨリ納入スベキ浮震閥ニ合ザル為メ

當時迄ハ着午シ居ラズ)ノ儘ニシテ自体ノ缺陷アル上ニ

作動堅キヲ偵察者ガカラ入ラ瓦斯操場トケルヲ引キタ

ルタメトケルハ遂ニ離脱シ浮込装置ヲ展張セズシテ着水

セルタメ機ノ浮力ハ殆ンドナク急激ニ沈没シタルハ操縦者

ヨリテ脱出ノ違ナカラシメタル一大原因ナルベシ

(2) 落下傘使用に關シ

從來ニ型落下傘ハ装着及装着後ノ地上操作稍々困難ナル外供用數ノ關係モアリテ搭乗員交代ニ不便多キ爲採縦者ニ一部ニ型落下傘ヲ使用セシメ當時植野一空モ本落下傘ヲ着用セルガ前記ノ如急激ナル機体沈没ニ際シ海中突入後下部連接索鉤ト傘帶鉤トノ解離不能ナリシカ或ハ落下傘裝帶ノ解脫不能ナリシカ其何レカ採縦席ヨリ脱出ヲ不能ナラシメタルモノト認メラル

(1) 着水衝擊ニ依ル採縦者ノ負傷

着水衝擊ニ依リ負傷シ自ラ脱出スルト能ハザリシハ非ルカモ亦殉職ノ原因トシテ考ヘラル、慮ナルモ同業者ノ言ヲ綜合スルニ極メテ良好ナル着水振ニテ採縦者が斯ク如致命傷ヲ負ヘリトハ考ヘラレズ

八、所見

所見ヲ分テ(一)發動機信頼性向上ニ関スルモノ

(二)沈没防止ニ関スルモノ(三)其他ニ関スルモノ、ニトナス

(一)發動機信頼性向上ニ関スル対策

實施部隊ニ於テハ航本機密第一ノ八號ヲ嚴守スベキハ勿

論ナルモ尚

(一)プロペラノ改良

(二)排氣弁坐ノ材質構造嵌入法ノ改良

(三)筒内潤滑法ノ改良

(四)發火栓ノ變更

(五)水衣衛帶ノ材質或ハ構造ノ改良

等航空廠製作會社等ニテ徹底的調査研究ヲナシ
速ニ適確ナル對策ヲ講ズルノ要アリト認ム

(一) 汎汎防共闘スル對策

新型汎汎装置ヲ取換フ(昭和九年三月三日改修済)

而シテ汎汎防共就テハ進シテ完全ナル汎汎装置ヲ研究スルト

共ニ羽翼ヲ水密ニシ或ハ機体ノ各部ヲ木造トシテ機体ニ浮

力ヲ持タシムル等眞劍ナル對策研究ノ要アリト認ム

(二) 其他ニ關スルモノ
。操縦者ハ裝帶解脫容易ナルニ型落下傘使用ヲ嚴守スルコト。
前記第七項(三)(四)ニ述バタル理由ニ依リ操縦者ハ必ずニ型

落下傘ヲ使用セザルベカラザルモノト認ム

又ニ型改一落下傘ノ脚帶金物ハ腰環ニ引掛リテ解脫

困難ナルヲ以テ此部改良ヲ必要トス

(終)

編 號	丁 八	※	20	※
機 密			秘	永

933T

九 三 七 一 四 四 五
一 六 三 〇 無 線 金 剛 發 着 (五 二 一) 5

秘

大 臣 次長、航本部長、横、吳鎮長官、二艦隊長官
佐 鎮 長 官 (横、吳、佐、龍、霞、大湊、一航戦司令官)
大村航空隊司令 加賀、鳳翔、能登呂、赤城艦長、

機密第二五番電

三月六日聯合艦隊第一回基本演習中乙軍大村海軍航空隊八九式艦上
攻撃機(オ三八九)發動機故障ノ爲午後零時四十分細島燈臺ノ六十
八度十五哩ノ地點ニ不時着水機體ハ約一分ノ後沈没操縦者上野一等
航空兵ハ機體ト共ニ沈没行術不明トナリ偵察者梅林豫備少尉伊藤三
等航空兵曹ハ午後一時二十分伊號第六十七潜水艦ニ救助セラレ爾後
伊號第六十七潜水艦及鳴戸ヲ以テ附近海面ヲ約二時間搜索且七日午
前赤城及神威飛行機多數ヲ以テ暹羅地附近ヲ搜索セシモ機體及上野
一等航空兵ヲ發見スルニ至ラズ同人ハ殉職セルモノト認ム。

七一三三四〇

編 號	7.18	※	20	※
關 係			秘	永

1369



航 本 部 長
一 監 隊 長 官

機密第四一番電（其ノ一、二）

本日午前七時鹿屋ニ於テ空中戦闘訓練中龍驥三式艦上戦闘機
ホ二百三號（板谷海軍中尉操縦）降下角角度六十度約百六十節
ニテ降下シ方ニ左リ急上昇ニ移ラントスル際右主翼折損シ急
激ナル右スピンニ入りタルヲ以テ搭乗者ハ落下傘ニ依リ無事
降着飛行機ハ畑中ニ墜落大破ス人畜ニ損傷無シ原因取調中、
同機飛行直前ノ状態良好使用時數機體百八十時、發動機二百
八時、プロペラ九十時。

一五一一三二〇

九 三 一 五
一 三 二 〇
一 五 五 〇
無 線
龍 驥 發
着 (一一一五七) 5

一 航 空 戰 隊 司 令 官

軍務司

九三三
〇六三五
〇八〇九
無線
伊六十一發
着
(八九七) 5

第二十九潜水隊司令

大臣、二階級司令官

佐鎮、二階級隊長官

タナ九六〇

1320

編 號 係	T. 18	20	永
		秘	

伊號六十二潜水艦乗組海軍一等水兵サヲモトタケヨキ(佐水一〇四一六)同艦ガ三月十二日佐伯灣出港聯合艦隊日令ニ依ル襲撃教練配備ニ就ク途中同日午後五時五十分後水道沖ノ島燈臺ノ一三一度十七哩ノ地點ニ於テ合戦準備ノ作業中激浪(波高五米)ニ没ワレ海中ニ墜落セリ、直ニ救命浮標ヲ投下シ潜水艦ハ繼ヲ操縦シ救助ニ努メタルモ暫クニシテ海中ニ姿ヲ没シ遂ニ救助スルニ望ラズ爾後引續キ搜索當隊各艦及軍艦青葉ノ援助ニ依リ終夜搜索今朝ニ至ルモ生死不明ナリ。